

日本海域における鉄棒運動の指導に関する 「体育科教育学」的研究

——金沢大学における過去 10 年間に亘る小学校教員養成
課程の学生に対する鉄棒運動の指導を通して——

石 田 保 之

1. 研究目的

本研究は、日本海域における小・中・高校並びに大学の冬期における鉄棒運動の指導効果をあげるための具体的手法を、「体育科教育学」的観点に立って探求しようとするものである。

カリキュラム構成上の理由だけで、鉄棒運動を冬期に実施するということは、果たして妥当であろうか。寒いドカドカの雪道を踏んで体育館に急ぐ私。学生達も又そうである。「嫌だなあ」とお互に思う。でもどうしようもないのだ。

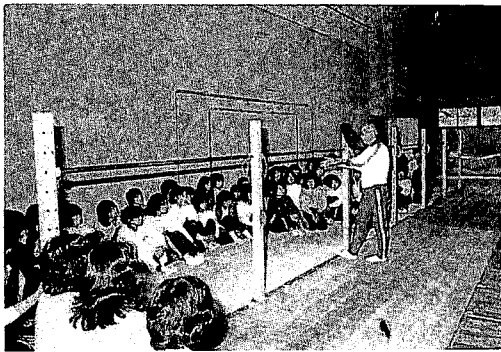
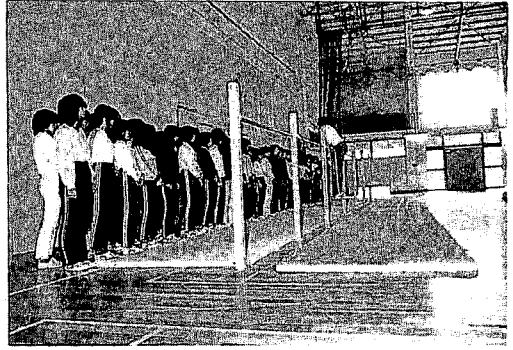
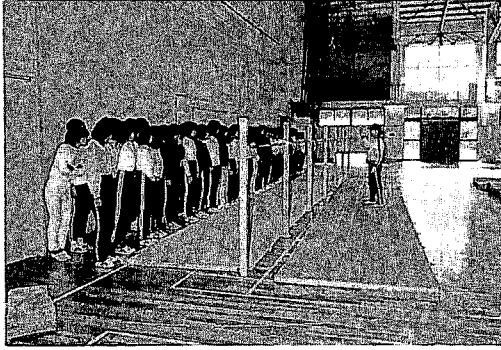
「体育科教育学」的にみれば、鉄棒運動の適期は春と秋である。それは自明の理である。鉄棒運動は危険を伴うし、技術的であるから、それに相応しい時期を選ぶべきであるし、最も相応しい時期に配当されてしかるべきである。又鉄棒運動は、運動をすれば体が暖かくなるといった性質の運動ではない。1時間中体温が余り変化しないということは、一時間中寒い寒いと思ひながら体育館の中でふるえていなければならないということになる。学生はともかく、私は冬の体育館の鉄棒運動の時間は寒い。体が冷え切ってしまう。本当に嫌だなあと思う。しかしどうにもならない。遂に思い余って、先年から体育館に鉄棒運動の時間だけストーブを1個入れることにした。そして時々そのそばに寄っては暖をとるが、余り暖たかくはならない。又、試験の時は、そこに坐って暖をとりながら100分間じっと採点しなければならぬのである。そうすると、多くの場合、女子学生達は私を遠巻きにしてしまう。寒いからである。

カリキュラム構成上ここに鉄棒運動をおかねばならぬというただそれだけの理由で、冬期に鉄棒運動が位置づけられているためだが、あの冷たいバーを握ると思わず身ぶるいをするし、体がすくんでしまう。機敏で軽快な動作等出来たものではない。試技者達は、既に「心意的」に鉄棒運動に対する意欲を喪ない、嫌悪感をすらもつであろう。このような状態のもとで、最も危険度が高いと体育教師が皆思っている鉄棒運動の授業が行なわれているのである。これ程非常識で矛盾した話はない。

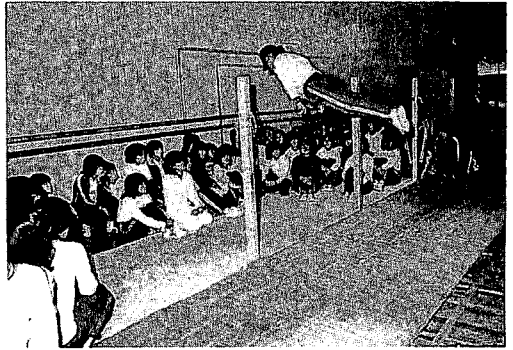
私は本学の地学の藤則雄教授の『石田先生、体育は冬は大変ですネ。あの鉄棒なんかもおやりになるのでしょうか。』という言葉が胸にジーンと応えた。が即座に『いや、仕事ですから』と答えた。

このような状態で鉄棒運動を体育館でするということはそれはもう「教育」ではない。教育という名に値しない。教育の「破壊」でしかないのだ。誰か偉大な先覚者が現われて——政治家でもよい、学者でもよい、経済人でもよい、どんな職業の人でもよい——この常態を打破してくれないものだろうか。

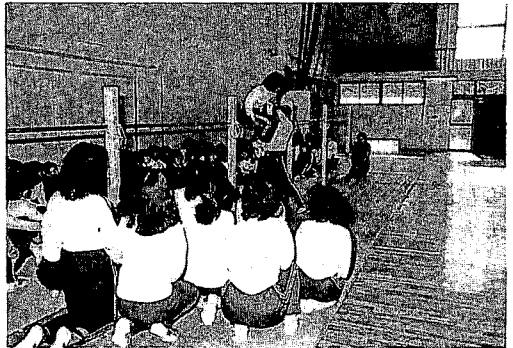
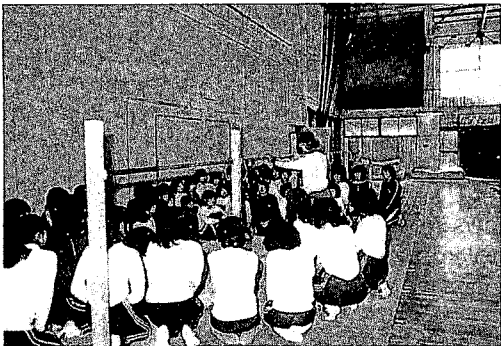
昭和58年8月3日受理



金沢大学教育学部小学校教員養成課程「個人運動」
鉄棒の指導



金沢大学教育学部小学校教員養成課程「個人運動」
鉄棒の指導



尚低鉄棒は本学が開発した（S. 54）ピン固定式で50cm埋込式のバレーボール支柱大の支柱を使用した1mから10cmきざみで1m50まで高低が調節出来る日本随一の六連式の高性能低鉄棒である。（第31回日本体育学会総会で研究発表）

それとも、教室は暖かいところ、体育館は寒いところ、当り前の事だ。と、世の中の人はいずれも一様に考えるのだろうか。私は曾て学生時代に（S. 15）東京のY・M・C・Aの体育館を見たことがある。そこは体育館というよりは「体育殿」といった方が似合っている程綺麗で、而も暖かかった。

（註）この点についてY・M・C・A現木塚敏夫館長に確認したところ、（S. 58. 3）Y・M・C・A体育館は既に大正六年より全館暖房されプールも温水化されていたという事実を得た。このことは当時は勿論現在においても尚画期的なことであり、敬服に値する。

我々は体育館を暖房すべきである。その「運動」を起こすべきである。それは体育教師として決して恥ずかしい事ではない。職務に忠実な寧ろほめられるべきことなのだ。何故なら、そうあってこそ、鉄棒運動は他の体育教材と同格の「学習条件」を備えた事になるのだから。

それにも拘らず、鉄棒運動不振の原因のすべてを、学生能力の不足や、教師の指導力のせいにしてはいるのは何としてもおかしい。

裏日本の小・中・高・大に果たして暖房のある体育館がどれ程存在するのだろうか？私が文部省に問い合わせたところ（S 52. 2）、『裏日本には暖房した体育館はない。札幌にもない。北海道の一部それも旭川地方等の極寒地ではしてあるが』ということだった。

この状態は、裏日本のいわゆる雪国では有蓋の建物がただあるというだけで、それは最早体育館といえたものではないことを示している。

それでは我々鉄棒運動を指導する者、或いはしなければならない者——全国の体育の教師と全国の小学校の教師の全部がそうであるのだが——は、有能な教師有能でない教師を含めて果して鉄棒運動指導の実態はどうであろうか。

私が曾て金大教育学部の小学校教員養成課程の男子二年学生に対して調査をしたところによると次の通りである。

- ① 小学校時代鉄棒の授業が1回もなかった者。……1人もなし。
- ② 中学校時代1回も鉄棒の授業のなかった者。……全体の約 $\frac{1}{3}$ 。
- ③ 高等学校時代1回も鉄棒の授業がなかった者。……全体の約 $\frac{1}{2}$ 。

これをみると、学生達が鉄棒運動が出来ないのは寧ろ当り前である気がする。又、このようなことは教育学部に限ったことだろうかと思ひ、同時期に金大教養部の二年生の文科系と理科系二年生の各1クラスについて全く同様の調査をしたところ、驚いたことに教育学部の場合と全く同じであった。可愛想に、彼等は鉄棒運動から全く「疎外」されて来たのだ。

これらの事は、それらの数字がおそらく事実に近いものであるということの意味しているが、これは最早常態ではない。異状としかいいようがない。国は一体この事実を何と見るのだろうか。教育委員会の保健体育課は一体これをどう考えるのであろうか？

それでも現実には冷たく厳しい。我々は敢然として、冷たい鉄棒を学生に握らせ、声をはりあげ、あらゆる努力を尽して鉄棒技術を習得させようとしているのだ。鉄棒が冷たかろうと感じている教師もおれば、もうそれを忘れていた教師もいる。

我々は今、最も危険で最も習得の難かしい鉄棒運動を、最も悪い条件のもとで敢てやらせようとしているのである。

体育館は冷たくて当り前、教室は暖かいのが当り前、というような常識外ずれや、精神主義者や、武道的感覚者達がいるとすれば、もうそれはそれにして、我々は我々で、「これらの条件」にも尚適合するような鉄棒運動の指導法を開発しなければならない宿命をもつものであるように考えるのである。

そのためには、先ず一人残らずすべての者が教材が出来るようにしてやる事だ。そうすれば、最低限生徒達の意欲を保証してやれる。というのは、鉄棒運動に関するあらゆる調査で、皆、「技が出来ないから」鉄棒運動は嫌いだと答えているからである。

私はこのため、すべての者が「安全」且つ「最高の効率」でもって鉄棒技 (Horizontal Bar Stunts) を習得することが出来る独自の「指導段階」を開発した。これによれば、誰でもが、何等特別の能力をもっていなくても、技を習得することが可能である。これらの場合、特に問題となるのは、下位集団の者の技能をどのようにすればあげてやるかである。このことが指導の核心となる。

II 研究方法

次に鉄棒運動における「安全」で最高の「効率」をもつ指導段階を、幾つかの技を例としてあげてみることにしよう。(拙著 不味堂出版『器械運動の段階指導』参照)

① 脚かけ上がり

何だ脚かけ上がりかといっているのではない。金大の小学校教員養成課程の女子の場合、授業を始める際に出来ない子がゴマンといるのです。脚かけ上がりは鉄棒で最も初歩の最も基礎的な技であり、且つ実用的価値もあることから、すべての女子学生に習得させたい。

運動の要点は、如何に体を小さくまとめて回転させて腕立て姿勢に起き上がるかにある。

② 踏越下り

これは簡単な下り技で実用的価値のある技であるが、金大小学校教員養成課程女子は、始業時にはこわがって出来ぬ者が多い。実用的価値もある技なので、全員に習得させたい。

運動の要点は、如何に有効に支持腕に体重をかけて腰を上げるかにある。

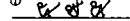
③ 片脚かけ後転

片脚かけ後転も容易な技であるが、金大小学校教員養成課程の女子の場合、授業の始めに出来る子は殆んどいない。片脚かけ後転は、回転技としては易しい技であるが、将来の回転技のための重要なファクターをすべて含んだような初歩技であるので、小学校教員養成課程の女子にも全員に是非習得させたい。

脚かけ上りの指導段階

脚かけ上りの指導段階

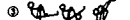
①



②



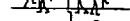
③



④



⑤



⑥



脚かけ上りの指導段階とステップアップ

【目標】脚かけ上りをする。足で支え、腕で支え、体を小さくまとめて腕立て姿勢に起き上がる。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

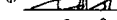
【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

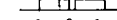
踏越下りの指導段階

踏越下りの指導段階

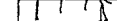
①



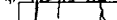
②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



踏越下りの指導段階とステップアップ

①

【目標】踏越下りをする。足で支え、腕で支え、体を小さくまとめて腕立て姿勢に起き上がる。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

【注意】腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。腕立て姿勢に慣れていない場合は、腕立て姿勢から始める。

運動の要点は、如何に体を最小形に丸めて保って回転力をつけるかにある。

④ 後転

後転も簡単な回転技であるが、金大小学校教員養成課程の場合、始業時には回れる女子は殆んどいない。この技は易しいが、重要な回転基礎技であるから、男子全員と大半の女子に習得させたい。

運動の要点は、腰を浅く屈げた姿勢を如何にキープして回転を続けるかにある。

⑤ 前転も簡易な基礎技であるが、金大小学校教員養成課程では、始業時には出来ない者が男子にも半数程度いる。この技は重要な基礎技であり、コンビネーションとしても多用される技であるから、男子全員に習得させたい。

運動の要点は、如何にして腰角度を最小に保って腕立て姿勢に起き上がってくるかにある。

⑥ 腕立横跳越し

この技は男子向きの教材で実用的価値もある技であるが、金大小学校教員養成課程男子では、授業当初出来ない者が沢山いる。体をまとめて前傾するコーディネーションを早くつかませてやりたい。実用的価値がある基本下り技だから、男子には全員に習得させたい。

運動の要点は、如何に体を小さくまとめて引きあげ体重を軸手にかけてバーを越えるかにある。

⑦ 蹴上がり

指導開始前に金大小学校教員養成課程の男子で蹴上りの出来る者は殆んどいない。同体育学科では大半の者が始める時に出来ている。よく世間で『蹴上がりも出来ない者が体育学科にくるのですか』と驚かれるが、こちらが驚くのであって、現在そのように学校体育における鉄棒運動の能力はどこでも全く落ちてしまっているのである。

さて、蹴上がりは中程度の鉄棒の「代表的教材」であるから、全中学生全高校生の男子には一人の例外もなしに出来るようにしてやりたい。この技が出来るようになると、男子は誰でも

片脚かけ後転の指導段階

片脚かけ後転の指導段階とステッププログラム

【目的】片脚を軸として後転を習得し、腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

後転の指導段階

後転の指導段階とステッププログラム

【目的】片脚を軸として後転を習得し、腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【指導】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

【注意】片脚を軸として後転をする。腕を伸ばして体を丸く保つことにある。

前転の指導段階

前転の指導段階図

前転の指導段階とエピソード
 実施方法 【要領】
 ① 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ② 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ③ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ④ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑤ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑥ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑦ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑧ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。

腕立て横跳越しの指導段階

腕立て横跳越しの指導段階図

腕立て横跳越しの指導段階とエピソード
 実施方法 【要領】
 ① 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ② 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ③ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ④ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑤ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑥ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。

大喜びをする——たとえ大学生になって出来るようになってもだ。この技は、男としてのプライドを与える不思議な力をつつんだ技だ。それはその出来かたや技術内容が、素人にとっては何としても魔術的で最高に面白く、何とも魅力的な技だからである。

又女子に出来る者が殆んどいないというのもこの技の特徴である。これはこの技の難度のためというよりは必要筋力のためであるように思われる。

運動の要点は、如何にして振り手を回転に変えて屈身姿勢で腕立て姿勢に起き上がってくるかにある。

III 結果と考察

- ① 「個人運動」は金大小学校教員養成課程の選択単位であるが、殆んど全員が出席していることは高く評価される。
- ② 脚かけ上がりは、金大小学校教員養成課程では男女全員が一人の例外もなしに昭和48年度より9年間に亘って試験にパスしている。
- ③ 踏越下りは、金大小学校教員養成課程では男女全員が一人の例外もなしに昭和48年度より9年間に亘って試験にパスしている。
- ④ 片脚かけ後転も、金大小学校教員養成課程では男女全員が1人の例外もなしに昭和48年度より9年間に亘って試験にパスしている。
- ⑤ 後転は、金大小学校教員養成課程では、男子は全員が、女子は平均約70%のものが昭和48年度より9年間に亘って試験にパスしている。
- ⑥ 腕立横跳越しは、金大小学校教員養成課程では男子全員が昭和48年度より9年間に亘って一人の例外もなしに試験にパスしている。

蹴上がり指導段階

蹴上りの指導段階図

蹴上りの指導段階とエピソード
 実施方法 【要領】
 ① 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ② 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ③ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ④ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑤ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑥ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑦ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑧ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。
 ⑨ 両腕を前方に伸ばし、膝を屈して上げ、顔を倒して姿勢がよいように起き上がる動作を指導する。膝を曲げる動作、肘が曲がる動作、顔が倒る動作、顔を上げて起き上がる動作、顔を倒して起き上がる動作を指導する。

「個人運動」鉄棒試験合格者

	男		女	
	受講者総数	合格者数(人) (%)	受講者総数	合格者数(人) (%)
S. 48	23人	19人 82%	103人	73人 70%
S. 49	22人	21人 95%	92人	65人 70%
S. 50	11人	11人 100%	117人	99人 84%
S. 51	25人	21人 84%	100人	68人 68%
S. 52	54人	45人 82%	104人	54人 50%
S. 53	40人	35人 87%	145人	95人 65%
S. 54	50人	45人 90%	122人	86人 70%
S. 55	63人	57人 90%	123人	93人 75%
S. 56	70人	57人 81%	113人	82人 72%
	358人	311人 86%	1,019人	713人 69%

⑦ 前転は、金大小学校教員養成課程では、男子全員が一人の例外もなしに昭和48年度より9年間に亘って試験にパスしている。

⑧ 蹴上がりは、金大小学校教員養成課程では男子の平均86%のものが昭和48年度より9年間に亘って試験にパスしている。

①から⑦に至る結果は、現在の日本の大学の実情からみて十分評価出来るものとする。

尚金沢大学教育学部小学校教員養成課程の「個人運動」の鉄棒運動の試験問題は、男子は、蹴上がり—前転—後転—腕立横跳越し、女子は、逆上がり—後転—踏越下りである。

金沢大学体育学科については既に日本体育学会大会でも極めて高いと評価されているように、現在の日本の大学の実情からみて極めて高く、その最高水準を示すものではないかと私は考えている。

V 結 び

私は、学生と共に、体育館は寒いもの、一時間中震えていなければならないものといった宿命の下で、これらの「段階指導法」を開発した。それは、これらの悪条件のもとで「どうすれば安全に技を効率よく習得させることが可能か」という課題を限りなく追求していった結果であり帰結である。

金沢大学体育学科体操単位認定試験問題

金沢大学体育学科単位認定試験問題

【男子】 (開始時右足を踏んでスタート) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

1. 上上がり (開始時右足を踏んでスタート) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

2. 上上がり (開始時右足を踏んでスタート) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

3. 上上がり (開始時右足を踏んでスタート) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

4. 上上がり (開始時右足を踏んでスタート) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

5. 上上がり (開始時右足を踏んでスタート) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

①上上がり(連続) ②上上がり(連続)

③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

6. トランポン バランスビンドロップ、フリップ、フリップ (フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ)

7. フリップ フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ

8. フリップ フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ

9. フリップ フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ、フリップ

【女子】 (開始時日本体育大学にて発表) 1. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

2. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

3. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

4. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

5. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

6. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

7. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

8. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

9. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

10. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

11. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

12. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

13. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

14. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

15. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

16. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

17. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

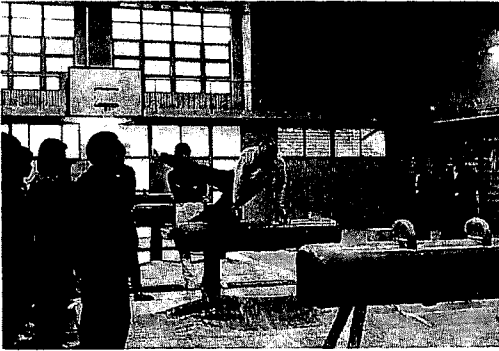
18. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

19. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

20. 連続(連続) ①上上がり(連続) ②上上がり(連続) ③上上がり(連続) ④上上がり(連続)

これらの段階指導法が、条件的に恵まれた表日本で開発されずに「日本海域」で開発されたことは、極めて皮肉なことではあるが、極めて深い意義をもつものであると考える。それは、優秀な選手あがりの教師は多いが、自分を出来ない生徒の立場において指導法を徹底的に追求していった教師が殆んどいなかったことを示している。更には条件が悪いが故にそれを克服しなければならぬという意欲に燃えたことがこれらの安全で効率的な指導段階が北陸の大学で開発された背景として考えられよう。

しかし、これらのことが現状を肯定するものではないことはたしかで、私は日本海域の体育館が一日も早く暖房され、「鉄棒運動」が他の教材と同等の学習環境を得て「すべての生徒達によって親しまれる」日の来ることを祈って止まない。



採暖のため体育学学科学生と一緒に鞍馬をしている著者 (S. 57)



石田方式による脚かけ上がりの段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生 (S. 55. 1)



石田方式による脚かけ上がりの段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生 (S. 55. 1)



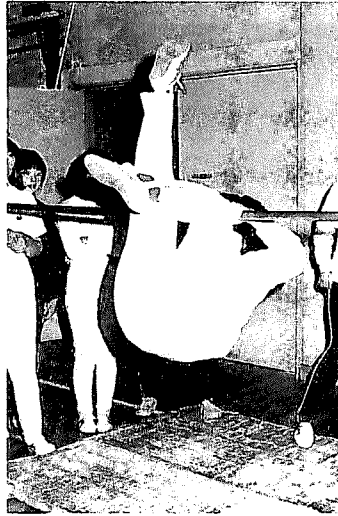
石田方式の片脚かけ後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生 (S. 55. 1)



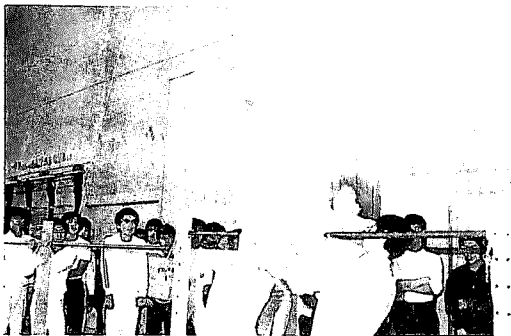
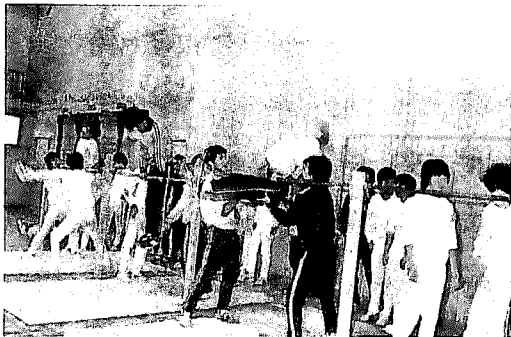
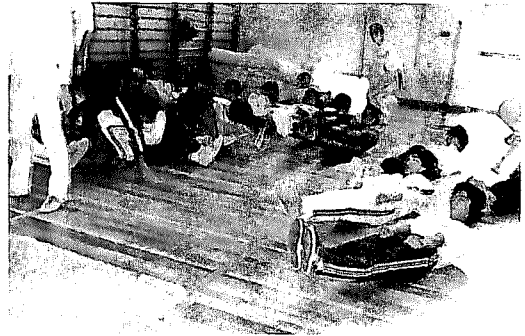
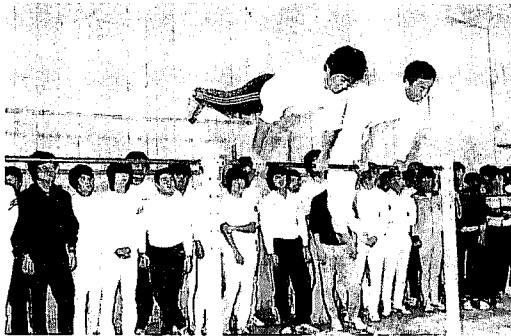
石田方式の片脚かけ後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生 (S. 55. 1)



石田方式の片脚かけ後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生 (S. 55. 1)



石田方式の片脚かけ後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生(S. 55. 1)
 石田方式の片脚かけ後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の女子学生(S. 55. 1)
 石田方式の鉄棒振り上げの段階指導を受けている金大小学校教員養成課程男子学生(S. 55. 1)
 石田方式の鉄棒後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程の男子学生(S. 55. 1)
 石田方式の鉄棒後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程男子学生(S. 55. 1)
 石田方式の鉄棒後転の段階指導を受けている金大小学校教員養成課程男子学生(S. 55. 1)
 石田方式の鉄棒蹴上りの段階指導を受けている金大小学校教員養成課程男子学生(S. 55. 1)
 石田方式鉄棒腕立横跳越しの段階指導を受けている金大小学校教員養成課程男子学生(S. 55. 1)



参 考 文 献

- 石田保之著『器械運動の段階指導』 不味堂出版
(S. 51. 9)
- 石田保之著『器械運動』 不味堂出版
(S. 36. 6)
- 石田保之著『スタントの理論と実際』 不味堂出版
(S. 30. 10)
- 佐々木 茂 訳『体育を通しての児童のガイダンス』 逍遙書院
石田保之 訳
(S. 26. 2)
- 石田保之：安全を確保し効率を高める器械運動指導論
金沢大学教育学部教科教育研究 第10号 P. 89~104 (S. 52. 7)
- 石田保之：器械運動技術指導論
金沢大学教育学部教科教育研究 第9号 P. 71~79 (S. 51. 7)
- 石田保之：鉄棒運動における好低能力者9 進歩過程に関する研究
金沢大学教育学部紀要第25号 (S. 52. 1)
- 石田保之：肥満児の指導に関する研究
金沢大学大学教育開放センター紀要創刊号 P. 29~36 (S. 55. 12)
- 石田保之：器械運動における学習初期のつまづきに関する事例研究
——昭和53年度卒金沢大学体育学科卒業生の場合 金沢大学教育学部紀要 第28号 P. 43~53 (S. 55. 1)
- 石田保之：「落ちこぼれ解消論」
——器械運動の段階指導を通してみたその体育学的領域よりのアプローチ——
金沢大学教育学部教科教育研究 第17号 P. 11~16 (S. 56. 7)
- 石田保之：現代の教育にも尚感動の教育は存在するか（落ちこぼれ解消論各論そのII）
——金沢大学教育学部小学校教員養成課程の体育科教材研究における鉄棒技術の習得に関する研究——
金沢大学教育学部紀要 第30号 P. 93~108 (S. 56. 9)
- 石田保之：自己の最も不得意とする運動領域における運動技能の発達に関する研究(落ちこぼれ解消論各論そのIII)
——金沢大学体育学科の2女子学生の極めて優れた静止倒立フォーム習得に関する事例研究——
金沢大学教育学部紀要 第30号 P. 79~91 (S. 56. 9)
- 石田保之：鉄棒における片脚かけ系スタントの技術特性の模式化と指導段階に関する研究
金沢大学教育学部紀要 第26号 P. 55~62 (S. 53. 1)
- 石田保之：身体的ハンディキャップをもつものの学習指導に関する研究
——金沢大学体育学科 A. H. (♀)とM. M. (♂)の倒立に関する事例研究——
金沢大学教育学部教科教育研究 第15号 P. 1~12 (S. 55. 7)
- 石田保之：「スポーツ教育学」的見地よりみた教材見直し論に関する基礎的研究
——その器械運動よりのアプローチ——
日本スポーツ教育学会スポーツ教育学研究 第1巻 P. 29~34 (S. 57. 11)
- 石田保之：体育においては特定教材の出来ないものが必ずいるという共通概念に関する体育科教育学的アプローチ
——金沢大学教育学部小学校教員養成課程M.T(♀)の鉄棒の脚かけ上りの技術習得を通して——
金沢大学教育学部紀要 第32号 P. 47~61 (S. 58. 2)
- 石田保之：スポーツ運動の「体育科教育学」的研究
日本スポーツ教育学会スポーツ教育学研究 第2巻 (S. 58. 11)